

Mini-WAN

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.139)

三河港湾事務所だより

2019年2月号

衣浦港の今と昔！取扱貨物量の変化に着目します

衣浦港の取扱貨物量を、昔（昭和34年）と今（平成29年）とで比べてご紹介します。（※輸出入とは外国との取引、移出入とは国内での取引を指します。）

＜昭和34年（1959年）の貨物量と主な品目＞

【輸出】 0t
【移出】 約 40万t（主に砂・石材、石炭、陶磁器類）
【輸入】 約 2万t（主にとうもろこし）
【移入】 約 130万t（主に砂・石材、石炭）
→合計：約 172万t

当時の沿岸産業は、紡織（知多木綿）、窯業（三州瓦）、食品に次いで金属や機械の生産が伸びていました。この年の9月には伊勢湾台風が来襲し、高潮により大きな沿岸被害を受けました。

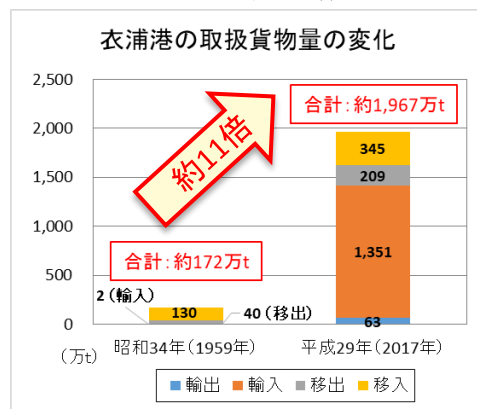
＜平成29年（2017年）の貨物量と主な品目＞

【輸出】 約 63万t（主に金属くず、鋼材）
【移出】 約 209万t（主に砂・石材、廃棄物）
【輸入】 約 1,351万t（主に木材チップ、石油ガス、石炭、とうもろこし）
【移入】 約 344万t（主に石炭、鋼材）
→合計：約 1,967万t、取扱貨物量は昭和34年と比べ約11倍になりました。（※移出されている廃棄物は主に石炭灰で、セメントの原料として利用されています）



愛知県提供
(H28.2.3撮影)

衣浦港全体図

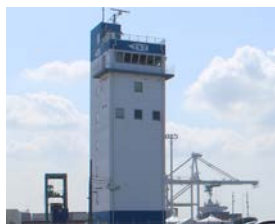


とうもろこしやエネルギー原料である石炭は、主に国内他地域から移入していましたが、世界市場からの輸入に大きくシフトしたことで、取扱量が伸びています。現在は、こうした貨物を運ぶ大型化した船舶に対応した水深10m以上の岸壁が19施設あり、中部圏の経済活動を支えています。

豊橋技術科学大学の学生が三河港を視察しました

1月11日（金）、豊橋技術科学大学の学生が三河港を視察しました。今回は、同大学の加藤教授より、学生に身近にある三河港を講義の一環として見学させて頂きたいというご依頼をいただき、本視察会を開催いたしました。

始めに当事務所保有の港湾業務艇「しおさい」にて、三河港の海上視察を行いました。船内から、三河港臨海部に位置する施設や企業を見学していただきながら、三河港の特徴なども説明させていただきました。



(株) 東洋信号通信社

また、当日は風が強く、波が立っていたことから、業務艇「しおさい」は大きく揺られました。一方、防波堤に囲まれた港内に入ると、船の揺れは小さくなり、静穏度を保つ防波堤の役割を直に感じていただきました。

海上視察後は、三河港神野ふ頭の「(株) 東洋信号通信社」にて、船舶の入出港情報の収集・管理や情報提供など、実際の業務風景を見学していただきました。学生の皆さんは、リアルタイムで船舶との通信を行う様子を、熱心に見入っていました。



三河港説明の様子（船内）

三河港湾事務所ホームページ <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

三河港湾事務所公式facebookページ

<https://www.facebook.com/mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>



みかわこうわん

三河港湾

検索



国土交通省 中部地方整備局
三河港湾事務所
公式Facebookページ



三河港は濃縮オレンジジュースの輸入量も全国1位！

完成自動車の取り扱いが非常に多く、海外ブランドの完成自動車の輸入額・輸入台数が全国1位を誇る三河港にて、全く違った全国1位を誇る輸入品があります。それが濃縮オレンジジュースです。

濃縮オレンジジュースとは、搾りたてのオレンジジュースから水分の80%以上を取り去ったものです。そのため、オレンジジュースの容積が減り、一度に運ぶことのできる量を増やすことができ、物流コストを削減できます。また、凍結温度が-23℃であるため-10℃保管でも液体を保ち、タンカー船から直接ホースでの移送が可能となります。



日本ジュース・ターミナル（株）



出荷の様子



濃縮オレンジジュース

三河港神野地区にある日本ジュース・ターミナル株式会社では、日本で輸入される濃縮オレンジジュースの約6割（平成29年度）を取り扱っています。また、出荷に至るまでの過程で適切に冷蔵保管や品質管理がなされており、安全なオレンジジュースをお届けしています。

（写真提供：日本ジュース・ターミナル（株））



「しおさい」の定期検査修理を行いました

三河港湾事務所には「しおさい」という名の港湾業務艇があります。

本船は、三河港や衣浦港、中山水道航路における当事務所発注の港湾工事の監督業務や調査測量等に使用されており、時には三河港内の視察や現場見学にも活用されています。

私たち職員にとって、港湾業務艇は仕事に必要な海上交通手段として不可欠なものです。また、災害発生時には港湾施設の緊急点検や緊急輸送活動の支援に使うなど重要な役割を担っていることから、運航に支障が出ないように定期的に検査及び修理を行っています。

今年度は、平成30年11月から12月にかけて造船所で定期検査修理を行いました。今後も「しおさい」の活躍に期待しています！



航行時のしおさい



定期検査修理の様子

- 港湾業務艇「しおさい」
- 全 長：14.27m
- 総 ト ン 数：19トン
- 建 造 年 月：平成元年3月



美しい三河湾で波を切って活躍することを念願して「しおさい」と命名しました。
（潮騒（しおさい）・・・潮のさす時に波が音をたてること）

● 三河港湾ギャラリー ●



作品No.60 衣浦港に着岸する貨物船

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※ 9:00～12:00と13:00～17:00

（土・日・祝祭日を除く）

※一部の地域を除きます。

国 土 交 通 省
中 部 地 方 整 備 局



三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1

TEL 0532-32-3251 FAX 0532-32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地

TEL 0569-21-2311 FAX 0569-21-2312

<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>